

再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担当課：道路局 高速道路課

担当課長名：吉岡 幹夫

事業名	しこくおうだんじどうしやどう とくしまひがし とくしま 四国横断自動車道（徳島東～徳島JCT）		事業区分	高速自動車国道	事業主体	西日本高速道路(株)
起終点	自) 徳島県徳島市北沖洲 至) 徳島県徳島市川内町富久			延長	5 km	
事業概要						
四国横断自動車道は、四国縦貫自動車道とともに「四国8の字ネットワーク」の一部を形成し、観光及び物流など地域の活性化に資する重要な路線である。						
H10年度事業化		H6年度都市計画決定		H26年度用地着手		H1年度工事着手
全体事業費		約606億円		事業進捗率		3% 供用済延長
計画交通量		約7,500台/日				
費用対効果分析結果	B/C	総費用	(残事業)/(事業全体)	総便益	(残事業)/(事業全体)	基準年
	事業全体 1.7	510/531億円		925/925億円		平成26年
	(残事業) 1.8	事業費：492/513億円 維持管理費：18/18億円		走行時間短縮便益：855/855億円 走行経費減少便益：53/53億円 交通事故減少便益：17/17億円		
感度分析の結果						
残事業について感度分析を実施						
交通量変動：B/C=1.6~2.0（交通量±10%）						
事業費変動：B/C=1.7~2.0（事業費±10%）						
事業期間変動：B/C=1.7~1.9（事業期間±1年）						
事業の効果等						
<ul style="list-style-type: none"> <li>円滑なモビリティの確保（並行区間等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される）</li> <li>物流効率化の支援（特定重要港湾もしくは国際コンテナ航路の発着港へのアクセス向上が見込まれる）</li> <li>災害への備え（緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する）</li> </ul>						
他9項目に該当						
関係する地方公共団体等の意見						
徳島県知事の意見：						
「四国横断自動車道 阿南四万十線（徳島東IC～徳島JCT）の事業を継続するという「対応方針（原案）」については、異議ありません。						
「四国横断自動車道 阿南四万十線」は、地域高規格道路「阿南安芸自動車道」とともに、「四国8の字ネットワーク」を形成し、「活力の道」として、経済・産業の発展、交流圏の拡大など地域の活性化に寄与するとともに、平時の救急救命、「南海トラフ巨大地震」などの災害発生時の緊急輸送道路となる「命の道」として、県民の安全・安心に重要な役割を果たす路線であります。						
このため、引き続き、早期供用に向けた事業の着実な推進をお願いします。						
事業評価監視委員会の意見						
「事業継続」とする対応方針（原案）については、了承された。						
<委員からの主な意見>						
当該区間の整備により、徳島市街地の一般道の交通量が縮減されるなど、大きな外部経済効果が期待できる。						
高速道路は災害に強く、また避難ルートとしても信頼性が高いことから、高速道路に併設した津波避難場所を自治体と連携して設置することは、地域の防災機能を高める良い取り組みであり、今後も積極的に取り組んでいきたい。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
平成15年3月に高松道全線が供用した。						
平成24年4月に徳島東環状線が一部供用した。						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
現在調査・設計に着手しており、引き続き地元設計協議を進めていく予定である。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						
現在調査・設計に着手しており、引き続き地元設計協議を進めていく予定である。						
施設の構造や工法の変更等						
地元設計協議など事業進捗に合わせ、設計並びに施工計画等の精度を上げていくとともに、新技術・新工法の採用や現地の状況変化も確認しながら、コスト削減を図っていく。						

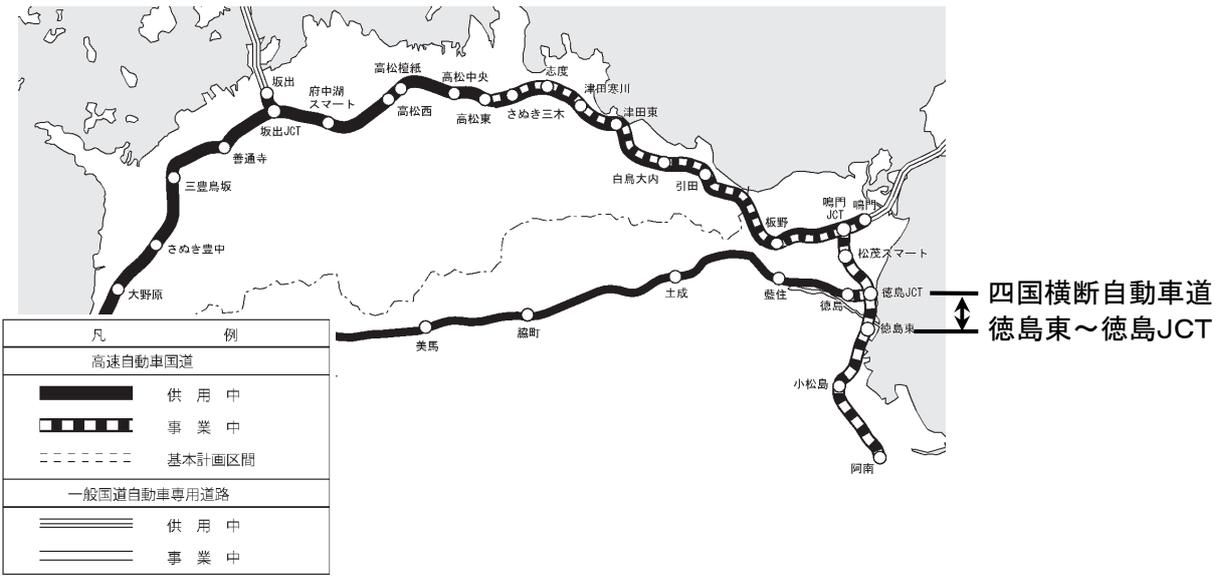
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。